

2019 年度日本農業経済学会第 1 回幹事会議事録

日時：2019 年 6 月 30 日（日）午後 1 時 00 分～午後 4 時 30 分

於：東京大学農学部 1 号館農業・資源経済学会議室

出席：草薙会長、堀田総務担当副会長、山本編集担当副会長、西川会長補佐常務理事、栗原企画担当常務理事、櫻井国際担当副会長、木島国際担当常務理事、角田情報担当常務理事、安藤和文誌担当常務理事、梅津英文誌担当常務理事、原田財務担当常務理事、井元大会開催校担当常務理事、草野総務担当常務理事

欠席：南石企画担当副会長、関根学会賞・国内学術交流担当常務理事

事務局：共立（三角氏、齋藤氏、諏訪氏、宮下氏）

開会

1. 学会長挨拶

- ・草薙会長より挨拶があった。また、第 1 回常務理事会に向けて方針を全体で確認・合意するという幹事会の趣旨が説明された。

2. 新幹事会メンバー及び事務局担当者の紹介

- ・出席者から自己紹介があった。

3. 今年度の主要会議、大会準備等のスケジュールについて

- ・西川会長補佐常務理事より、今年度の学会運営スケジュールの検討依頼があった。

1) 東北大学大会：2020 年 3 月 28 日（土）、29 日（日）

2) 今後の会議等のスケジュール

①第 1 回常務理事会：7 月 20 日（土）13 時～、於：東大農経会議室

②2020～21 年度理事の選出依頼：12～1 月頃

③第 2 回常務理事会：例年 2 月末から 3 月初めを予定

④第 2 回幹事会・第 1 回理事会：3 月 27 日（金）

⑤2020 年度総会：3 月 28 日（土）

⑥新理事会：3 月 28 日（土）

3) 9 月 2 日付で大会案内（予告）、10 月末に大会案内詳細を作成する。

4. 2020 年度東北大学大会について

4.1. 2019 年度東京大学大会報告

【1. 大会開催校より】

- ・東京大学大会の収支及び引継ぎ事項が報告された。

- ・大学構内では大会実行委員会の許可のない物品の販売が禁じられていることを出版社に周知徹底する必要性が指摘された。今年度の東北大学大会では、シンポ開催の初日は開場申請時に言えば出店可能である一方、個別報告の際の出店については検討していくことが確認された。
- ・個別報告者受付が設置されたが、大会参加費を支払わずに報告する可能性が排除できない点が指摘された。受付の仕方をどうするか、総務が大会開催校担当常務理事と相談していくことが確認された。
- ・特別セッションは1時間5千円を徴収するという話が大会実行委員会に正式に伝えられていなかった点が指摘された。
- ・会計収支報告書の様式を統一すべき点が指摘された。
- ・大会参加費・懇親会費の支払い方法について、事前に所定の口座に振り込むようにするとアルバイトの学生を減らせる点が指摘された。事前振り込みの方法について早稲田大会の時の実績を調べる必要性が指摘された。大会開催校担当常務理事より、今後検討していくことが確認された。

【2. 企画・総務担当より】

- ・大会における報告数と、個別報告の受付に関する状況及び問題が報告された。
- ・企画担当常務理事から、第1回常務理事会までに、特別セッションのみ、投稿無しの条件で論文無しで報告できるか、企画で検討すると報告があった。

4.2. 東北大学大会の準備状況

- ・東北大学の運営プラン及び準備状況について報告があった。
- ・大会開催校担当常務理事から、青葉山駅を降りてすぐの所に大学の保育園があるので休日（大会開催期間）の対応を問い合わせると説明があった。また、開催期間中は生協を開けてもらうか、弁当を準備するよう検討するという説明があった。

4.3. 企画委員会報告

- ・大会関連スケジュールとシンポジウムの企画について説明があった。
- ・「大会開催に関する申し合わせ」を内規に格上げする旨説明があった。

4.4. 連携委員会報告

- ・食料・農業・農村基本計画の改定が来年3月に閣議決定されるのに合わせ、連携委員会主催で、情報提供をメインとするミニシンポを開催するという説明があった。
- ・大会開催校担当常務理事から、東北大学農学研究科との共催としてほしいとの希望が伝えられた。また、草苅会長から、講演・共催の場合、大会費用が安くなる点が言及された。

5. 各担当の業務について

5.1. 総務

- ・次期総務担当ローテーションの考え方について説明があった。
- ・個別報告申請システムの導入についての説明があった。
- ・農業経済学辞典の二次利用許諾について、転載許諾は辞典編集委員会と丸善と合意がとれた一方、二次利用は辞典編集委員会は丸善と契約を更新しているところであると説明された。契約がどのようなことを想定しているか、辞典編集委員会に確認すると報告された。
- ・草薙会長から、二次利用については辞典編集委員会と学会のすり合わせを最初にする必要性が指摘された。

5.1.1. 学会賞・国内学術交流

- ・今年度の学会賞・国内学術交流について報告があった。

5.1.2. 財務

- ・会計監査での指摘事項への対応、財務動向、財務体質の課題について報告があった。
- ・草薙会長から、財務全体の状況を把握したうえで、個別報告自動受付システム導入を検討すべきとの発言があった。また、第2回常務理事会で自動化システムの導入を決定する方向性が示された。

5.1.3. 情報

- ・学会誌の電子化、J-Stageでの早期公開、学会HP更新、ニュースレター配信の検討について報告があった。

5.2. 編集

- ・JJAE/Research Lettersの締め切りが延長された点について説明があった。
- ・「農業経済研究」及び「JJER/JJAE」実績について説明があった。
- ・草薙会長から、学生会員は形式上減っているのか、実際に減っているのか調べるよう、総務に指示があった。
- ・英文誌担当常務理事から、共催シンポ・大会シンポのJJAEの掲載について、Research Letterと同程度の長さとし、査読なしということでよければ執筆依頼を送りたいとする報告があった。
- ・日韓シンポの内容のJJAEへの投稿について査読あり・なしが分かる形にしてほしいとする要望に対し、英文誌担当常務理事から、執筆者が査読の証明が必要な場合、レターを送るという説明があった。国際担当副会長から、まずは執筆者の意向を確認する方向性が示された。

5.3. 国際

- ・国際委員の変更について説明があった。
- ・櫻井国際担当副会長から、アジア農経学会を2023年に開催予定であるため今年度中に実行委員会を立ち上げたい旨、また、アジア農経学会の開催場所を検討している旨が説明された。
- ・今期で決められることは、申し送り事項として承認するという方針が示された。また、日程や費用等は、第2回常務理事会で決定する方針が示された。
- ・アジア農経学会と農経学会のシンポの同時開催については、アジア農経学会の日本セッションとして、農経学会を開く形を想定しているとの説明があった。

6. 事業委託の状況及び契約書の紹介

- ・事業委託の状況及び契約書の紹介があった。
- ・海外から雑誌 Caribbean Studies が事務局に届いたが心当たりがあれば連絡欲しい旨報告があった。
- ・7月20日（土）の12時からの正副会長等会議と、13時からの第1回常務理事会の開催案内があった。

閉会

以上。

草野（総務担当常務理事）・西川（会長補佐常務理事）作成